

地域ごとの耕種基準

置賜地域

高品質小麦生産のための耕種基準

	立 地 条 件	生 育 の 特 徴
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> • 気温の日較差が大きい盆地型気象である。 • 年間降水量は1,400mm前後で、その約半分は作物生育期の4～10月に降る。 • 根雪期間は90日程度で、最深積雪深は平坦部で80cm、山間部で140cmと県内でも多雪地帯である。 • 土壌はグライ土が中心で、細粒強グライ土、細粒グライ土が多く、透水性に劣る反面生産力は高い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 圃場の透水性が劣るため、湿害が生じやすい。 • 根雪期間が長くなりやすく、雪腐病等の発生がみられる。
改善目標	<ul style="list-style-type: none"> • 耐雪性が比較的高いナンブコムギの作付け • 堆肥等の施用による土づくり • 施肥改善による生育量確保 	<ul style="list-style-type: none"> • 排水溝や明・暗きよの設置による排水対策 • 融雪促進による雪害防止 • 効率的な機械化作業体系の定着

2. 想定経営体

- (1) 小麦栽培面積 15ha（その他、大豆、そばの作付けと作業委託）

土壌条件：細粒強グライ土

- (2) 組 織 作業受託組織 オペレーター2名

- (3) 使用機械と作業体系・作業時間

作 業	排水対策	堆肥・施肥	耕 起	播 種	除草剤散布
使用機械	トレンチャー	マニュアルスプレッダー、ブロードキャスター	トラクター30P、ロータリー	ロータリー、播種機（6条）	ブームスプレヤー、ハイクリアランス
内 容	排水溝、明きよの設置（隔年）	堆肥、基肥散布	荒起し 耕起	整地・播種	土壌処理剤の散布
作業時間 hr/10a	0.4	0.4	1.0	0.2	0.1

作 業	追 肥	収 穫	乾燥調製	合 計
使用機械	ブロードキャスター	汎用コンバイン、軽トラック	循環型乾燥機 粒選別機	
内 容	融雪直後の追日	刈取り 運搬		
作業時間 hr/10a	0.2	0.5	0.8	3.6

3. 栽培技術の特徴

- 機械化による効率的な作業体系
- 排水対策の実施、堆肥施用による土づくり
- 病害虫防除、肥培管理など適期適作業の実施
- 適期刈取りと適正な乾燥調製による品質向上

高品質小麦生産のための栽培管理の要点

品種及び生育目標

品 種	品 種 の 特 徴	栽植様式	畝 幅	播種期	播種量	出穂期	成熟期	稈 長	穂 数	千粒重	目標収量
ナンブコムギ	中生の早、耐寒性、耐雪性に優れる。収量性は中。多肥栽培では倒伏しやすい。穂発芽性は難。	ドリルまき (すじ播き)	20cm	10月上旬	10kg/10a	5月15日	6月28日	100cm	430本/m ²	40	400kg/10a
ネバリゴシ	中生の早	ドリルまき	20cm	10月上旬	10kg	5月17日	7月1日	90cm	450	36	450

施肥・土づくり

品 種	土づくり肥料	ようりん	苦土石灰	堆きゅう肥	基肥NPK	追肥N種類	特 徴 あ る 栽 培
ナンブコムギ ネバリゴシ	隔年施用	60kg/10a	100kg/10a	1.5t/10a	N10-P10-K10 kg/10a	融雪期追肥 4 kg/10a	機械化による効率的な作業体系 堆肥施用による土づくり 適期刈取りと適正な乾燥調製

月 旬	4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月			11 月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生 育 時 期	分けつ期 筋間伸長始期 幼穂形成期			減数分裂期 出穂期						成熟期									播種 出芽						
管理の要点	管 理	融雪直後追肥 排水溝手直し									収穫			サブソイラー			耕起 排水溝手直し			耕起・播種					
	防 除				(多発の場合) アブラムシ防除															種子消毒 除草剤散布					